



もの書きが苦勞するのが、ネタ探しである。ネタを探す方法として、どんなものが考えられるだろうか。ネタがネタである本質を考えながら、ネタを探す方法を紹介しよう。

第十八話 ネットを探す方法について

今回から、世間で話題になっている事柄や流行を意識しながら、自分独自のネタの探し方について紹介する。これまでは、調べる事柄や内容が決まっている場合における情報検索の方法について、紹介してきた。

今回からは、「これから何を調べたらよいか」の手掛かりを得る方法と、「探しあてた資料から、注目される情報に仕立てる」方法について紹介する。これが、ネタの探し方であり、ネタに仕立て上げる基本である。

世間の話題や流行に関心を持ち、独自の製品やサービスの開発や提供に従事している人は、数多い。新製品や新サービスの開発担当者、新聞・週刊誌やテレビ局の企画担当や取材記者、連載記事を書いているブロガーなどなど。

これらの人達が苦勞するのが、世間の話題や流行からネタを見つけることである。彼らは、世間の話題や流行をうまく取り入れながら、それとは一味異なる情報を発信することを目指しているからである。

もちろん、世間の話題や流行を追いかけることを潔しとしない人もいる。しかし、この激動する時代に、世間に無関心では生きてはいけない。超優良企業でも時流を読み間違えて倒産し、国家ですら経済破綻して、多くの人々が路頭に迷う時代である。

その上、専門家ですら事前予想できなかった大事件が、世界中で相次いでいる。これらの事件の世界経済や企業経営への影響は、一般の想像を超える。ギリシャの財政破綻に始まるユーロ危機は、欧米の金融機関の信用不安や格下げを引き起こし、タイの洪水被害は、日本の家電や自動車メーカーに大きな被害をもたらしている。

すでに話題になった事柄でも、報道されていない部分やタブー視されている部分が沢山ある。プラスαの種は沢山ある。TPP（環太平洋経済協定）協議への参加のメリット・デメリットは、政府の放射線の安全基準は信用できるのか、アメリカ牛肉製品の輸入規制緩和の是非などなど、世間の関心を集める多くの事柄で、賛否両論が渦巻いている。

賛否両論が錯綜しているからこそ、プラスαの種となれる。これを世の中では「ネタ」と呼んでいる。ネタの捉え方にはいろいろあるが、筆者は世間の常識に反する「意外性」を重視している。世間的な用語でいえば、神話の崩壊、定説を覆す、通説のウソといった呼び方がされている事柄である。

ネタであるための条件としては、さらに「新規性」と「広範性」が求められる。「新規性」とは、従来とは異なる新分野での発生や新技術の採用といった目新しさである。「広範性」とは、一過性の出来事ではない、類似の出来事が他にも見出せるといった広がりである。これら3つの条件が満たされれば、多くの人々が関心を示し世間の話題として注目されることになる。

ネタとは、例えて言えば、「赤道直下で発見された冰山」である。冰山が赤道付近で発見されれば、稀有の異常事態ということになる。最初に発見された時には、本物の冰山かの真偽が問題となるし、近隣海域で複数の冰山が発見されれば、異常気象時代の到来か？ということになる。水面下の巨大な氷の状態や内容が解明されれば、新たな話題が更に提供されることになる。

実例を紹介しよう。「昨年の2011年、タレント“猫ひろし”が、カンボジア国籍を取得し、次期オリンピックに出場を目指していた」という記事が注目された。これがネタに出来るかもしれない「種」である。

この意外性は、「マラソンの素人であるタレントが、夢のオリンピックへ出場できるのか」と「出場のために、外国籍を取得できるのか」の2つである。この「種」が「ネタとして広がり」を得られるかどうかは、他に類似例が見出せるかどうかにかかっている。

調べてみると、これからオリンピック出場をめざしている選手は他にもいる。体操の塚原直也や柔道の石井慧といった元金メダリストが、外国籍を取得して再度オリンピック出場を目指しているという。実現すれば、日本代表と外国代表の日本人同士による金メダル争いが実現するかもしれない。そうなれば大きな注目を集めることになるであろう。

既に外国籍を取得しオリンピックや国際大会で活躍した日本人を調べてみると、川口悠子、伊奈恭子、井上怜奈など、少なからず存在する。こうしてみると、外国籍を取得してまでオリンピックを目指す日本人が、増えているのではないかと思わざるを得なくなる。

逆に、日本国籍を取得し日本代表として頑張った元外国人選手も、少なくないことがわかる。ソフトボールの宇津木麗華、卓球の小山ちれ、バレーボールの白井貴子、アーチェリーの早川浪などの選手は、日本人名で出場しているので、日本国籍を取得した「帰化選手」とは、気づかない人が多いのではないだろうか。

海外を調べてみると、卓球の国際大会では、中国人選手と中国帰化選手とがメダルを競う場面が多く、いろいろなトラブルを引き起こしている。卓球以外のスポーツ競技では、同様の帰化選手によるトラブルは、発生していないのであろうか。

このように見てくると、国籍を変えてオリンピックや国際大会に出場を目指す選手は、世界的に増える傾向にあることが想起される。この「帰化選手」の問題は、他のスポーツの競技大会や世界の国々でも、今後、大きな関心をあつめる可能性があるといえる。

このように意外性、新規性、広範性が見出せれば、ネタとしての価値があるといってよい。このような選手の名前を探すには、グーグルのキーワード検索で、{オリンピック 国籍変更}、{世界大会 帰化選手}などとすれば、簡単に見つけられる。調べてみると、各スポーツ競技の国際競技連盟では、帰化選手へのルール作りに着手していることが判る。

ネタを見つける簡単な方法はない。しかし、ネタを見つける手掛かりや道順を得ることは難しくない。誰もが簡単にできる最初の一步は、反意語（対語）を想起し、「AとA-（Aの対語）の逆転」の具体例を見つけることである。

例えば、「新参者が老舗を逆転する」、「大国が小国に負ける」、「輸出と輸入が（初めて）逆転する」、「赤字が黒字に（初めて）転換する」、「薬が毒として作用した」などなど。これらの具体例を意識して探せば、ネタの種を見つける確率は高まるはずである。次回は、インターネットを利用してネタを探す方法について、さらに、検討することにした。